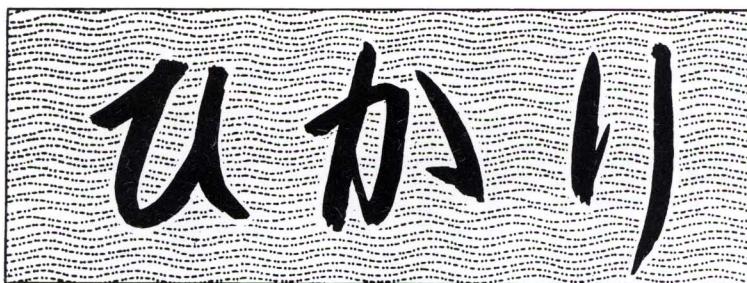


No. 70

2006年(平成18年)
11月1日

発行

浄土真宗本願寺派
和歌山教区日高組
責任者
鈴木悟峰

はらがたつなら念佛申せ
佛もブツブツ
ナムアミダブツ



2006年度児童念佛奉仕団(本願寺にて) 2006.7.24~25

薄拘羅は出家して七日間は煩惱がはたらいて在家の信者の供養を受けていました。八日目には悟りを開き、それから一度も供養を受けませんでした。おシャカ様の時代、このように悟りを開いた人を阿羅漢と言い、貴い人、人々から供養を受けるにふさわしい人という意味がありました。阿羅漢になつた薄拘羅も、供養を受けられる人となつたのですが、身を律して静かに一人で修行をしていました。また、薄拘羅は生涯一度も説法をしませんでした。このことをいぶかつた帝釈天は薄拘羅に尋ねました。「智者は喜んで法を説くのに、あなたはどうして法を説かないのですか」と。

薄拘羅は帝釈天に答えました。

「おシャカ様をはじめ舍利弗や阿難陀など説法の巧みながたが法を説かれています。おシャカ様は悟りを開いたものはみだりにしゃべるものではないと教えられました」と。今でも、インドに行くと言葉で説かないで、身をもつて示される説法があります。薄拘羅はおシャカ様の教えのとおり沈黙を守つて身をもつて法を説かれたのでした。

阿弥陀経にはこのほかに、智星第一の摩訶劫賓那、問答第一の摩訶俱絆羅、舍利弗の弟の離婆多、解律第一の憍梵波提、獅子吼第一の賓頭盧頗羅墮、おシヤカ様を迎えて行つた使者の迦留陀夷と仏弟子が登場します。ここでは紙面の都合でこれらの方のお話を略します。

阿弥陀經に聞く

| 仏弟子

薄拘羅など |

日高組の組報「ひかり」は、この度、七〇号を発刊し、お届けすることができます。昭和五十八年八月一日、第一号を発刊し、二十三年間が経過しました。

この間、浄土真宗のみ教えを少しでも領解していただければとの思いから、小さな灯火も絶やすことなく、今日まで、組内各寺のご家庭に配付され、法味愛樂のお法の輪を広めつつ、更には、離郷されている方々にも届けていただき、現在は千五百部の発行をさせていただいています。

組報「ひかり」発刊の起りは、組教化活動推進（お念佛のみ教えが一人ひとりに届く活動）に当たり、家庭や身体の事情から、組又是各寺院での研修会や法座に参加参詣できかねる門信徒の方々への教化伝道、その一端としての文宣伝道となり、延いては、住職僧侶の自己研鑽の指針となることを念じ発足したものであります。

タイトルの「ひかり」は、組内門徒一人ひとりに心のあります。

光明（ひかり）となればという願いから名付けられました。昨今、「こんな悲惨なことがどうして起きるのだろうか」と思い疑う悲しい事件が多く報道されています。子供への虐待、親子間の殺害事件などを聞かされる時、共に人間として生を受けながら、残念ながら自己を省みない心の豊かさに欠ける人が多くなった様に思われます。そうした世にあって、私達は、眞実なる仏様のみ教えを通じて、いのちの尊さに目覚めるよう自らの心の有り様を知らせて貰わねばなりません。

そうしたことからも、「全員聞法、全員伝道」にご協力を願うばかりであります。

日高組報「ひかり」の二十三年の歩みますと、発行当初は、伝道に重点をいた内容の編集で、用紙は九号から現在の用紙サイズに改め、活字を大きく見やすくし、法悦クイズなど取り入れ、馴染みやすくなっています。



組報ひかり七〇号発刊に寄せて

日高組組長 鈴木悟峰

「光明（ひかり）となれば」という願いから名付けられました。

「光明（ひかり）となれば」という願いから名付けられました。

たことと思います。最近は、法悦クイズに参加してくださいます。○○についてお教え願います。」などの一言を頂き、大変うれしく思っています。

また、六十九号からは、インターネット、鷺森別院、和歌山教務所のホームページ内に、各組活動紹介項目があり、そこでの閲覧が可能となっていますので、是非活用して下さい。

法悦クイズ

下の1~2の○内にあてはまる漢字と【鉢】の字を組み合わせて、本願寺第三代覺如上人が著された『親鸞伝絵』の詞書（説明書き）の名称を答えて下さい。

（参考）『親鸞伝絵』の図絵は「御絵伝」と呼ばれています。

69号の正解は、「御消息」でした。正解者の中から、次の方に粗品を進呈いたします。

1 ○歳暮の季節	2 偉人の記
-------------	-----------

官製ハガキにクイズの答え、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、所属寺、御感想、御意見等を明記の上、

〒649-1221

日高郡日高町志賀3851

善宗寺内 組長事務所

までお送りください。

※抽選で10名の方に粗品を差し上げます。

※締め切り日

平成19年1月31日

※発表は次号

組報「ひかり」をホームページに掲載!

日高組報「ひかり」が69(前)号より本願寺鷺森別院・和歌山教区教務所のホームページに掲載されることになりました。

昨今のインターネットの普及がめざましい中、世代を問わず活用されている方が増加の傾向にあります。

日高組広報部では独自のホームページ開設を目指し、全世界に発信できる広報伝道を目指しておりますが、管理面や運営費用などの諸問題があります。

鷺森別院・和歌山教区教務所のホームページを活用し、「各組活動紹介」欄にひかりを掲載していくことになりました。

また、組内の基幹運動諸活動などの案内等も順次掲載していきたいと考えております。

インターネット www.saginomori.or.jp で閲覧できます。

閲覧方法

- ① ブラウザにHttp://www.saginomori.or.jpを入力。
「鷺森別院」「和歌山教区教務所」でも可能。
- ② 鷺森別院のホームページが開きます。

① 入力する



③ ここをクリック

- ③ 和歌山教区各組活動紹介をクリックする。
- ④ 日高組 ひかり ○○号 (PDF)を開くと組報が見られます。

よろこび家族



家族構成

子夫子り太紀
シヨ通壹か亮雄
谷 口

が、身近な人の死をご縁にして、阿弥陀様がより身近に感じられるようになり、幸せな日々を送れることに感謝しております。

夫を亡くした当時、幼い孫が「おばあちゃん、ユーゲンギギまだ言わんのかい。」と催促してくれたものでした

たが、その子も元気になりました。時々、お仏飯も上げてくれます。私も、報恩講には専福寺や近くのお寺様にお参りさせて頂くのが楽しみとなつていています。

今後、息子夫婦、孫達も阿弥陀様のみ教えを聴かせて頂き、お念佛をよろこぶ門徒に育つてくれることと信じております。

生前中は、総代を務めさせて頂き、報恩講をはじめ、寺の行事法話を聞くことを楽しみにしておりました。悲しいことではあります

五十五年前、生まれて六日目の長男を亡くしました。それ以来、専福寺の門徒となつて、ご住職より「南無阿弥陀佛のお六字が阿弥陀様とお話出来る唯一の言葉」と教えられ、これを心の拠りどころとして、毎日朝夕、

手を合わせ生活をして参りました。又、主人の十三回忌を九月に迎えましたが、

お経本は、お釈迦さまのて仏を拝めとおおせられることなし」と記されていました。

お経本は、お釈迦さまの手を合わせ生活をして参りました。又、主人の十三回忌を九月に迎えましたが、

お経本は、お釈迦さまのて仏を拝めとおおせられることなし」と記されていました。

お経本には、例えば一字毎に、下に蓮台を描いたものが残っています。それは、一字一字が仏さまそのものであり、真実のお言葉であるという意味です。ですから、お経本は必ず経机の上に置きます。

決して、畳の上や床の上などには、直接置かないよう心がけたいものです。

蓮如上人も『御文章』に「聖人まったく数珠をすて

お念珠の持ち方とお経本の扱い方

門徒心得

お念珠は、仏教徒にとって、大切な法具です。

お念珠は、左手に持ち、合掌の時は房を下にして両手にかけ、両方の親指で軽く押さえます。

お言葉を文字化したものであります。仏さまがこの私に、眞実とは何かを知らせるために、人間の言葉となつて届けたいものです。

法事などの仏事の際、お念珠を忘れる人がいますが、お言葉を文字化したものであります。仏さまがこの私に、眞実とは何かを知らせるため

に、人間の言葉となつて届けたいものです。

決して、畳の上や床の上などには、直接置かないよう心がけたいものです。

蓮如上人も『御文章』に「聖人まったく数珠をすて

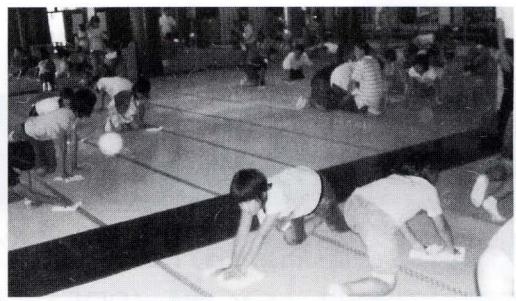
和歌山教区少年連盟児童念佛奉仕団に二〇名が参加！

夏休みを利用して、今年も本願寺への児童念佛奉仕団が一泊二日で清掃奉仕活動を行いました。（一面写真掲載）

日高組からは小学生二〇名と引率三名が参加し、二日間にわたり、総御堂のぞうきん掛けなどの清掃奉仕



全国からの参加者に和歌山教区の紹介をしました



総御堂の清掃奉仕活動

日高組通信

【連続研修会（連研）】

日高組第七期連続研修会（連研）が第十二回真宗法座時から開催されます。二年間で十二回の研修を経て

二年後の真宗法座にて卒業が予定されています。

決して、畳の上や床の上などには、直接置かないよう心がけたいものです。

蓮如上人も『御文章』に「聖人まったく数珠をすて

【日高組門信徒研修会】

平成十九年一月二十八日（日）午後一時三十分より、日高組門信徒研修会を開催予定。

ご講師に奈良教区・小林明師。会所は未定。

総代会後期研修会を日高組門信徒研修会と同時開催の予定。

【総代会後期研修会】

総代会後期研修会を日高組門信徒研修会と同時開催の予定。